

おがたさん

83号

真宗大谷派
高徳寺通信

2018年 夏号



中村久子さん

なかむら ひさ こ

「仏法に遭遇」

「命を生きた人々

いつしか借金まみれになってしまいました。そういうして、「うち」に久子の手首がボロっともげ落ちました。こうなるとすぐに手術です。切る部分は少しひどく短かくしようとすると、切ったそばから、又すぐには切らねばならず、大根の輪切りのよつに何度も手足を切つてきました。一夏かかってようやく手足の先に薄皮がはるが、寒い冬にはザクロのようにパツクリと開いてしまいました。全く治りません……。

久子さんは、3歳の時に父は精神的にも肉体的にもボロボロとなり、山ほどの借金を残して亡くなりました。母は再婚をしますが、再婚先では久子は温かく迎えてはもらえませんでした。そんな我が子を母は嚴しく躾て、食事、トイレ、風呂といった身のまわりのことはもさえ出来るようにしてくれました。久子に出来ないこと二つ。自分の髪の毛を結ぶことと、後ろ手に両手を結ぶこと

中村久子とう方を存知でしょうか? 彼女は明治30年(1897年)11月25日、佐賀県高山に金鳴栄太郎・あや夫婦の長女として誕生しました。3歳の時に霜焼けがもとで「突発性脱疽」という病氣にかかります。両手両足の末端が高熱を発し、水分が蒸発し黒褐色になつて病氣で不治の病と言われており、「両手両足を切断しない」とやう人が、切つても治る保証はない」と医者に言われたそうです。どうしたうえか今からもう……。そんな時に高山にある宗教団体が入ってきました。やうをも掴みたいために父が行つて聞いてみると、「前世で女を騙した罰が娘にきた」と言われ、信じた父親は「神様の水」なるものを買って戻り、久子の患部につけて、必死に治さうとしました。水はすぐ無くなるし、高額なうえお金は無くなり



◆この人形は久子さんの自作。ヘレン・ケラーさんへのプレゼントだ。

だけは物理的に無理でした……。10歳の時に「手を使わずに飯を食べる」のは、大ネコや畜生だと言わされました。どうしようもない奴が込み上げて来ただよ。う、「私は大ネコではない。畜生ではない。人間なんだ。人間になりました!!」……こうして、この時から人間にじろううといつ努力がスタートしたとあります。私たちの想像を絶する努力で、編み物や書道、料理、お内仮の灯明や線香に火を灯すことさえ出来るようになりました。しかし心の中は……。「なんで私はかりこんな日に遭わなければいけないのか。両手両足が無いばかりに!!」……そういう思いが溜まりに溜まって来ておりました。

自分を差別している…と本能的に感じた相手を、「私は心中で何人、人を殺したか知れません」と述懐されています。こんな恐ろしい心は捨てなければ…。そう思ってもなかなか捨てられるものではありません。答えをせながら、「ううな人を訪ねられたそうです。その中にはヘレン・ケラーさん(目が見えず、耳が聞こえず、口がきけないUSAの方)もおられました。「なんでもありますように穏やかでおられるのか?」私も「あります」になりたい。そう、「う」心が湧いてきました。しかし一方では「人殺しのよう」心では、大・えこ以下ではな「か」と自分の心が叫びます。そのような自分の心の心を何とかしようと悩んでいた久子さんに、一大転機が訪れます。ある婦人会の会合に招かれた時のことです。隣に座られた方の口から「なんまんじぶなんまんじぶ」と静かにお念仏が出ていたのです。それは幼い頃、抱かれたがらに聞こえていた祖母のお念仏と久子の中で重なったのです。そしてその方の縁で「歎異抄」と出逢うのです。42歳の時でした。そしてびっくりするのです。煩惱を捨てよ!忘れよ!断て!と教えられるところか、親鸞聖人は「煩惱を引き受けよ」と言われるのです。「煩惱具足の凡夫」;「煩惱を背負って立て」と言われる。久子さんはどうう教えに遭遇なのです。煩惱の本はどうであ



◆ご主人におんぶされた久子さん。



◆人形もじゅうこ作られました…。

る両手両足のばらの身体を私自身として引き受けたといふことである。「肘から先が無い。皆はあつた」などいう比較的の発想が転せられて、「肘まではあった」ということに氣づく。そして我が身に引き受けでみだら「肘から先が無い」ではなく「肘まであった」ということに氣づかされたのです。両手両足があつたら全く氣がつかなかつたかもしれません…。そして、「両手両足の無いのが私を救つた」のだと、このどなた様に聞いてもそんなことを言う人はいよいよ少く。子どもが生まれてくる時も、「男がいい」とか「女がいい」…「男でも女でもいいけれど、五体満足に生まれてきて欲しく…」。そう願うのが親の願い。人の常です。よぬ。「両手両足の無いのがありがたい」なんてことが言えるのは、真奥の教えに出会って、自分の思いを超えた「はたらき」に郷音がありります。「命」はお父さんお母さんからもらつた限りあるいはこのおと。「寿」は量り知れないようございのちのことです。この私のいのちは量り難きようござりを求めてくる。この身体は、私にこのことに氣づけとはたらきかけています。お念仏に遭遇して、そのことに気づけたり、五体満足でなくとも生きていけるのでしょうか。現実を引き受けたところにしか現実はありません。三島多聞「住職から聞かせていただきお話を一部をご紹介させていただきました」。

『石川・福井・飛騨高山の旅』

2018年
5月23日～25日

『蓮如上人と
念佛の道場を訪ねて』
どうじょう

第15回旅行会

旅の
ルート

羽田から
IN
小松空港
①

○吉崎別院
吉崎御坊②
よしざき ごぼう

○加賀温泉
① 光闇坊
こうやくぼう
○山代温泉
「葉渡莉」
はとり

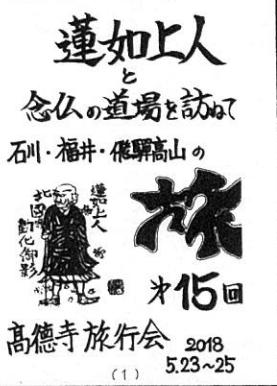
○託願寺②
とがんじ
そば屋
そばや

○川合道場
かわあいどうじょう
②

- ① = 1日目
- ② = 2日目
- ③ = 3日目

OUT
長野駅
東京駅へ

○高山別院
「高山グリーンホテル」
②
○昼食
すうじき



今回の旅は蓮如上人のご旧跡を巡り、お念佛が伝えられてきた道場のルートを訪ねて参りました。初夏の北陸と飛騨高山を巡る見聞録です。お気楽な心もちでおつきあいくたさい。

◆本堂内陣の蓮如上人
の御影



◆84歳の上人

けでいた。

上人の御掛軸のお顔（御影）は、84歳のものなのだ。うしろの御掛軸は、84歳の時に贈られた。35歳でお亡くなりになつたので、最晩年の御影で珍しい。各自・光闇坊を散策、お参りさせていたいところ、バスに乗り込み、今日の宿・山代温泉にあるホテル「葉渡利」に向かう。ぬるに浸り、初日の疲れを取つて、18時より夕食・懇親会。美味しい料理と酒を味め、ながく、笑つたりお喋りをして、一言コーナーを終えて、お開き。ホテル内で「一揆太鼓」のミニョーをやってみると、皆で観に行く。色々な顔のお面をつけた人が代わる代わる太鼓を打ち鳴らす。迫力のあるものだった。酒と太鼓が腹にしみた一行は、ミニョーべ終了したところで解散。それどれ思い田心に山代の夜を過ごしていただく。光闇坊を出る頃から降り出した雨が音を立てて、山代温泉の夜は更けていた。



入り口近くに自然石の上に立つ蓮如上人の石像が参詣者を迎えている。像の下に「慧灯」と書かれており、「慧灯」と彌陀の「光明」と彌陀の「智慧」が世を照らす」という意味だ。これは、「上人の智慧が世を照らす」という意味だ。大師と「證号」を明治15年に明治天皇より追贈された。

それから本堂内陣、蓮如

5月 23日	1日	光闇坊 ↓
山代温泉	葉渡利	

【アレン・ネルソン】
名・糸羅阿蓮
ベトナム戦争中、13ヶ月の間
毎年間にPTSDに悩まされ、帰還後18
ヶ月で佐野住職が勤められ
が深く、晩年は反戦活動
をされていた。葬儀はニューヨ
ークで佐野住職が勤められ
お骨は光闇坊に…。



◆佐野住職は夕食懇親会までご参加くださいました。
記念撮影、ハイチーズ♪



◆久しぶりにリラックスして
お話しさせていただきました…。

5月24日
2日目
↓ ホテル「葉渡荘」

↓ 吉崎別院



◆ 吉崎別院の山門。この石段を登ると、視界が開け、大きな御堂が見える

坂道と石段を進んで行くと大きな本堂が目に飛び込んで来る。本堂にて副輪番の波戸さんよりお話を聞かせていただき。蓮如さんは“お文(お手紙)”を沢山書かれた方として有名である。仏法の教え: 100のことを10に、10のことを一つにまとめたものとお文。現在250通くらいが確認されている。吉崎御坊のことをこのあたりの人達は「お山」と呼んでいるそうだ。1475年蓮如上人はここから退去され、その後1506年に坊舎は焼き払われた。現在の本堂は1474年に建立された。厳しい気候と経年でかなり傷んでいて、修復の開始が待たれる。また、有名なのが、「蓮如上人御影道中」だ。蓮如上人の没後、吉崎別院で厳修される御忌法要に、上人の御影を本山よりお迎えして勤められたのが始まりで、以来、上人が歩かれたとされる約240kmの道のりを僧侶や供奉人といわれる方々が御影(肖像画の軸)と共に歩む御仏車として345年(今まで)続いている。御影道中は、京都の本山における御下向式(舟)に始まり、約14ヶ所の会所を立ち寄り、御帰山式(舟)をもつ

て終了となる。次に「嫁威し肉附醜」の話も有名だ。十樂村の与曾次(よぞじ)の妻、お清は一里半(6km)程の道を毎晩歩いて吉崎の蓮如上人のもとへ仏法聴聞に赴かけていた。この家の娘は念佛嫌いで嫉妬深く娘の吉崎参りをなんとかやめさせようと考えていた。ある夜、白山の社の鬼の面を付け、鎌を手にして、吉崎からの山道で待ち伏せ、お清を威した。震えるお清の口からは「はまば食は、喰らはは食はまじ」と言葉と共に、切り落とす金剛の、他力の信は、よもや



◆ 吉崎御坊の蓮如上人の像の前に記念撮影。雲が快晴に!!

5月24日

2日 目

吉崎別院・吉崎
御坊 → 託願寺
川合道場 → 李



◆託願寺本堂。鉄筋コンクリート造り。階段を登て本堂内へ。

◆牧野豊丸住職のお話し……。
まきの とよまる



よう在我家へ走り帰った。ところが姑の姿が見えず……もしやと思い先程の襲われた所まで戻ってみると面がとれずに涙声でもがいて、る姑がいた。お清の言葉に促されて、お念佛申したところ、不思議なことに面はスリリと落ちた。以後、この姑も熱心な念佛者となつたそとう……とお話を。右下の面は吉崎別院に残つてゐるもの。一つしかないはずの面は、他の寺にも残つている(笑)→どの面が本物なのかを問うことが大切なのではなく、兎とうのは誰のことで、どこにいるのかが……という問い合わせてくることが大切だと感じた。お話を聞いた後、皆でお山に登る。



◆名物の“越前おろしあばとソースカツ丼”を食す。旨い!! そばは少く並べた……。



◆太い梁(はり)のおかげで道場内に柱がない!



◆川合道場
300年以上とう。



◆左から末永喜美代さん(91)、道場坊主の末永彦治さん(88)、新井千代子さん(93)



◆夕食後、住職の部屋で大人の寄り合談会。

その昔、ここに沢山の人々が蓮如さんのお話を聴聞しに集まっていたとは思えない程、静かで広大な土地だ。一行は託願寺へ参拝し、法話を聴いて「うきそば」へ。バスで「川合道場」へ向かう。山ありの国道を進むと一時間半、岐阜との県境に近い大野市川合地区に川合道場はある。この道場には住職はおらず、「道場坊主」という戸しかないので、お朝事の当番は9日に一度順番が回ってくるそうだ。道場のお内陣のお明かりをつけていただき、皆でお勧めをして後、お三方の話を耳を傾ける。内陣の床板には多数の凹みや傷がついてる。これは内陣に向かって小銭を投げ入れる「投げ銭」という伝統の「跡」なのだろう。座敷の左右には、八藤紋(はつともん)と抱牡丹紋(はだんもん)が入った本製のさし銭箱があり、参拝者は「まずじ本山にして」とさし銭を入れてからお参りすると聞き、皆で入れて来た。本願寺が東西に分かれると以前からの「直參門徒」(できさんもんとう)が多い。土徳の地に念佛の道場のルーツを見た。お三方、どうぞお元気で!

◆蓮如上人は、常に「仏法を聴聞したら、談合→(8)→(談合)をして、私はこう聞いたよ……とものを申せ」とおっしゃった

2日目同様、最終日の朝も快晴である。朝風呂、朝食を味わう。バスに乗り入れ、

5月25日	3日目
24日	高山グリーンホテル
↓	高 山 別 院 参 拜 ↓

川合道場では美味しい“甘酒”が振る舞われ、一同ご満悦…。お世話役の三方に別れを告げてバスに乗り込み、飛驒高山へ向かう。一時間ちょっとで高山グリーンホテルに到着。ひと風呂浴びて、夕食懇親会。朝から合流してくださいた託願寺の牧野住職も2日目から参加していた盛り上がったことは想像に難くなろう…。(前ページ下写真)

5月24日	2日目
川合道場	高山グリーンホテル

◆高山別院の山門で、(アリ)別称・高山御坊(ひだご坊)

◆三島外聞住職の法話を拝聴する。



開基は嘉念坊善俊(後鳥羽上皇の子又は孫と伝えられている)である。輪番にて挨拶をして行くと、別院にお勤めの方で中野照蓮寺(高山に照蓮寺は二つある)のご住職がおられて、是非お参りして欲しいと言われる。時間に余裕があるし、牧野住職もここはとても意味のあるお寺ですとおこやうので、野村ドライバーにお願いして近くまで行ってもらうことにする。ちょうど照蓮寺の裏の公園に停められたので、そこから歩いて中野照蓮寺へ向かう。自然豊かな所だ。



◆朝市:川べりのお休み処でハイチーズ!

◆飛驒牛の握り。せせらべいの上に乗ってくる。



◆照蓮寺本堂…山々の形にも似た緩やかな屋根の曲線は、懐駆の寺院建築を象徴する優美さ一つである。

この照蓮寺本堂は、淨土真宗の寺院では日本最古の建物といわれ、昭和35年に合掌造りで有名な莊川村から高山城の丸跡へ移築された。約50年前の建立と伝えられる本堂は、書院造を基調として、道場発祥の過程がうかがえる。かつては莊川村中野にあつたので中野御坊と呼ばれてきたが、ダム建設とともに昭和33年（55年）に現在の地に移築された。一本の大杉を使った長さ

5月25日	3日目
↓ 長野駅	中野照蓮寺参拝 ↓ 大喜（昼食）

七間の長大な梁や、緻密な木目の板材など見所は多い。国指定の重要文化財になつていて、日本で最初の内陣形式の寺院である。（お寺のスタイルの原形）内陣の床が置敷き（たてこいは板）で、仏壇構え（多くの真宗寺院は須弥壇へ阿弥陀さまが安置されている台）の裏に後堂と言つて出入り口がある（ただし、この本堂には無くて壁になそいる）。



た、高徳寺の仮本堂にとも似ていると感じた。なんだか懐かしいなア…。川合道場と現代の真宗寺院の狭間的な大変意味深い本堂であることに違はない。コースにはなかつたが、思いがけずお参りが出来て、本当に良かった…。あること難しきおかげさんだなア。鳥たちのさえずりと木々の音さを耳や目に焼きつけながら、一行はバスに乗リ込み、お食事処



◆懐駆高山っぽい（？）茅葺き屋根の建物。せかせかの雰囲気。

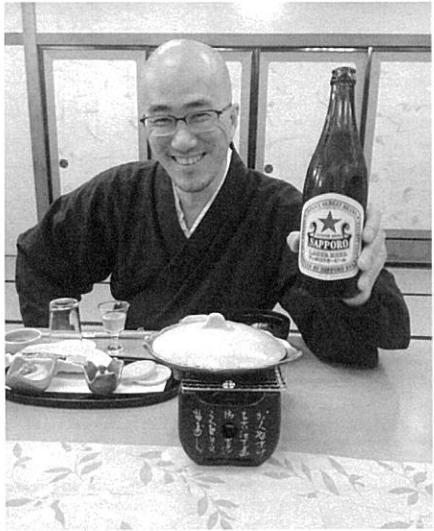
長野駅までのルートは、上高地等の自然満載な景観を楽しめながら進んで行く。途中、降りて歩きたい所が沢山あつた。マイクをまわして、全員一言ずつ感想を述べた。16時、無事に長野駅に到着。野村ドライバーとお別れする。三日間、大変お世話様でした。

「大喜」というお店へ移動。懐駆牛定食に舌鼓を打ちながら、最後の昼食のひと時を味わつた。12時40分、長野駅に向けて出発する。良い天氣＆新緑が眩しい。

5月25日
3日目

長野駅
↓
東京駅(解散)

まる二日、旅行会におつきあい
くださった牧野豊丸住職とも、
この長野駅でお別れです。
牧野住職が参加されて
なかつたう、この旅は大変です。
ペラなものはなついただろ、
心より感謝いたします。一行
は、17時9分発のあさま628号
で一路東京へ。18時52分、無
事に到着。バスの中、思いや
御札は申しておるので、各々
家路に着く。お疲れ様でした。
今回は、光闘坊の佐野明弘
住職、託願寺の牧野豊丸
住職、高山別院の輪番、
三島多聞住職、ご協力を頂いた。
こんなことありえない! く
らいのご縁が成就した訳



佐野 明弘 住職



三島 多聞 住職

である。参加して頂いた方々、
旅行会社の担当者、旅行に
参させてくれた寺族、その他、
関わってくださった全ての方
に御礼を申し上げたい。
来年はどこに行くのかと、
いろいろな方に聞かれるの
ですが、まだ決定してないの
で公表はしないでおこう。

次回も樂しい企画を立て
たいと思つてますので、参
加やご協力の程、宜しくお
願いいたします。

Special
Thanks♪



牧野 豊丸 住職

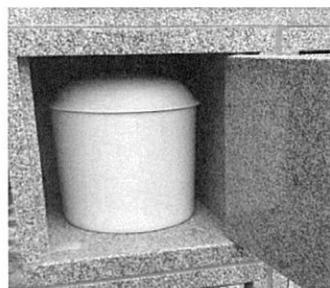
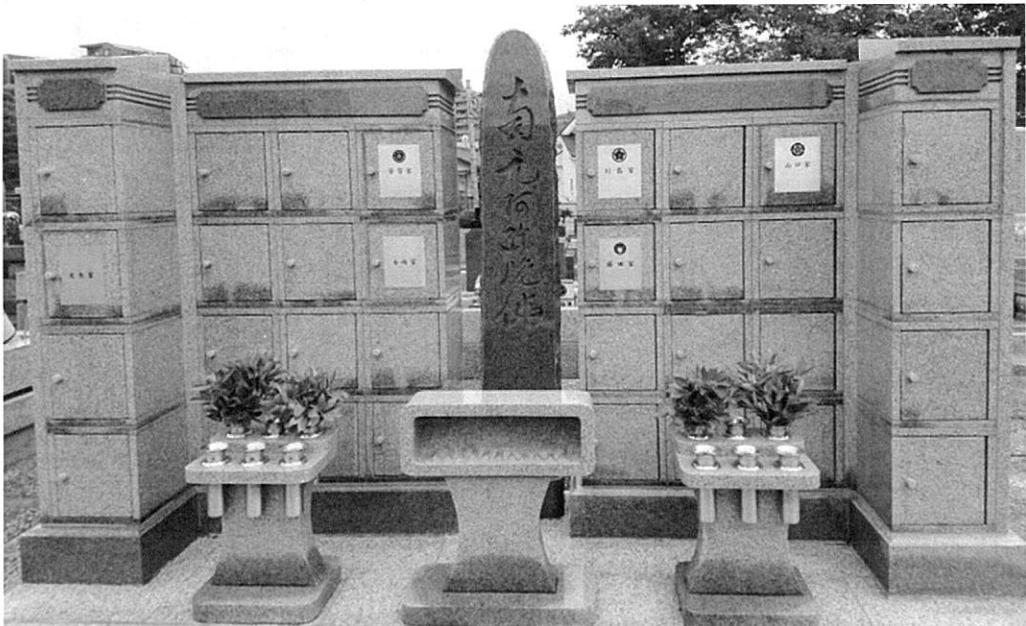
高徳寺

帰西廟

お寺が建立したお墓『帰西廟』を、20年間ご利用いただけます。必ず延長することも可能です。

新規の方や墓じまいされた方もご利用されています。お問い合わせは高徳寺へ。

二名様以上、四名様までは、袋にお移して納骨出来ます。



◆一名様の場合は七寸までの大きさの骨壺のまま納骨出来ます。



詳細は“高徳寺ホームページ”でもご覧いただけます。



(12)

お線香キャリア

好評です

火についている方を下にして入れて運べます。風の強い日も安心。腕にかけたり置いたり出来ます。お帰りの際に返却ください。



2018
年の

報恩講

ほう おん こう

は

10月 20日(土)

法話

海法龍姓

かい

ほうりゅう

です。

報恩講とは 親鸞聖人のご法事です。親鸞さんがお亡くなりになつて今年で756年になります。親鸞さんの教えとは何なのか？自分とどう関係があるのか？会ったこともない人の法事をなぜ勤めるのか…？“報恩講”について“？”がついた方は是非お参りしていただきたいです。（日程等詳細は次号で！）

ご門徒の方から年回（法事）の案内を出して欲しい…というご要望がありますので、今後、大切な方の年回（三回忌とか七回忌とか）にあたるお宅には「連絡ハガキ」をお送りいたします…（人）

ゴーエンズ

『GOENZ』

チャリティー Live

パーティ

2018. 8. 29 wed

19:00 start

¥1000
/人

*中学生以下は無料です。

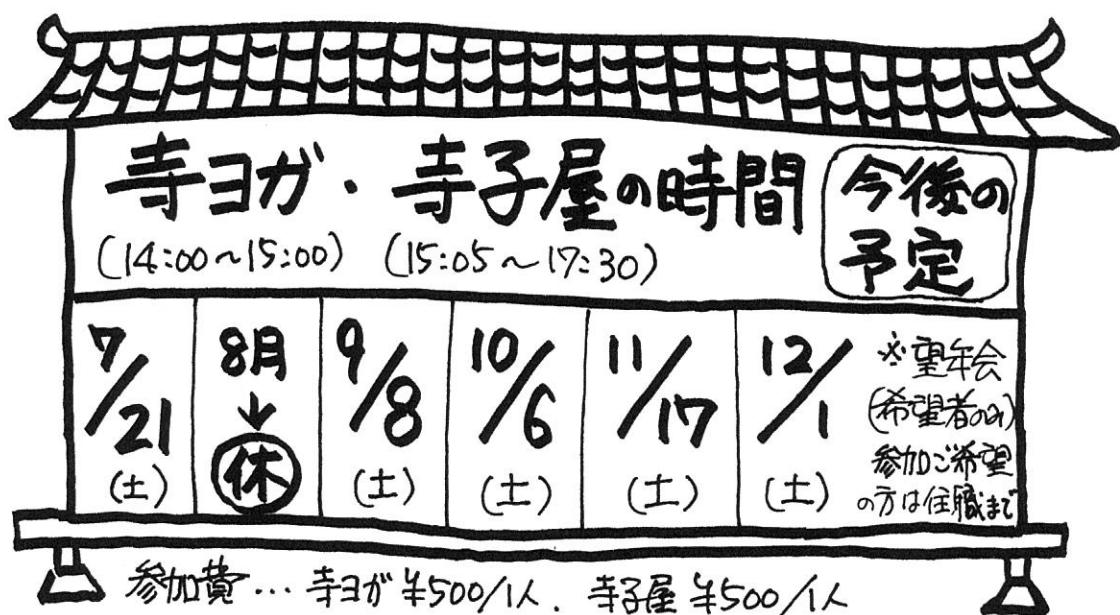
毎年ご好評をいただいております、チャリティーライブ♪ 歌って、踊って、笑って、暑い夏をスッ飛ばしましょう。 当日の収益金及び「義援金BOX」内の募金は、真宗大谷派・災害ボランティア部門へ寄附させていただく予定です。皆様のご来場をお待ちしております!!



(開場→18:00
19:00~20:30 予定)

高徳寺 新井伯記念ホール
B1

*毎年夏に「シャクソニズム」がやっていたのですが、今年から住職のバンド、「ゴーエンズ」が演奏いたします。お誘い合わせて遊びに来てください!!



Omigaki Houshi Onrei

伊藤 隆介さん
海東 雅子さん
清水 和美さん
菅原 悟さん
菅原 千恵子さん
寛谷 恵美子さん
水越 拓路さん
水越 和子さん

あると難しきおかげさんです。

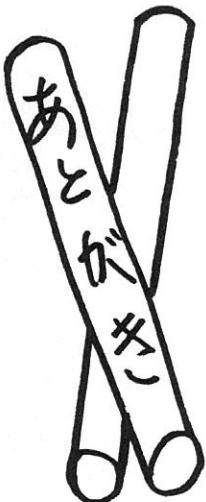
本堂の仏具を磨く機会はなかなかありません。高徳寺では有縁の方々のお力を借りて、年に4回仏具の“おみがき奉仕”をお願いしております。車座になっておしゃべりをしながら楽しくから真剣に仏具をピカピカにします。終了後、皆で正信偈をお勧めし、茶話会を味わって解散です。是非ご参加(ご奉仕)ください。

今年はあと2回あります。
9/16(日)
12/16(日)
* 望年会あり〼
14時～本堂まで

カニパ御礼
鈴木新一さん
大覩宏子さん
神野くらうさん
稻葉千代子さん
杉村健一さん
金山徳喜さん
江守敏雄さん
(いただいた順です)
ありがとうございます。

3月のおおがきで奉仕して
くださった方々です。

◆前住職(新井道雄)が亡くなつてはじめてのお金を迎える。月日の経つのは本当に早い…。



「日ごろの心」(煩惱一つで、どんな物事も慣れていくし、色あせていく)からすれば、月日が経てば経つ程亡くなつた人のことは忘れていくはずなのだ。そんなことはなくて、子どもの頃に言られた一言とか、様々なシーンが蘇ってくる。もっとおあしておけば良かったとな・あり時はとうとうこう思ひがあつたのか・とか思つことがあるけれど、一人で考えるとしんどいこともある…。だから法事で縁のある者が集つて勤めるのかな?なんてつらつら思つたりするお金直前…。

仏法をあるじとし

世間を客人とせよ

蓮如上人

蓮如上人のこと
『蓮如上人御一代記聞書』
(真宗聖典 P.883 [57])

表紙の絵
「光闇坊の蓮如像」

今回のあかげさん83号、
も藤井清三さまの
ご厚意により発行できました。
有るごと難しあかげさんです。

発行日 2018.7.13

発行 真宗大谷派 高徳寺

編集 住職 新井義雄
(法名 穤義祐)

T164-0002

東京都中野区上高田
1-2-9

釋義祐

03-3368-6947

FAX 03-3362-8019